



反知性主義と ポピュリズム

歴史的背景と日本の現実

講師◎森本あんりさん

日 時 | 2017年10月21日(土)午後2時—4時

会 場 | 武蔵野市民会館・集会室 (地下1階、定員90名・先着順)

東京都武蔵野市境2-3-7 ☎ 0422-51-9144

JR中央線「武蔵境」駅北口から徒歩5分。「すきっぷ通り」を
北へ行き、最初の信号で左折、次の信号で右折、すぐ前方右側。

参加費 | 1,000 円



トランプ米大統領の登場やイギリスの EU 離脱決定をきっかけに、「ポピュリズム」「ポスト真実」「フェイク(偽)ニュース」、そして「反知性主義」といった言葉が急にメディアをにぎわせるようになりました。これらを扱った本も次々に出版されています(別掲＜関連書籍から＞参照)。

この日本においても、それらの現象やその気配が間違いなく感じ取られるからでしょう。

果たして、「反知性主義」とは何なのか? 「ポピュリズム」とは「大衆迎合主義」のことなのか?

インターネットやスマートフォンの普及など情報環境が激変する中で、

「民主主義」の基盤はどのように変質しつつあるのか?

森本あんり氏の著書『反知性主義—アメリカが生んだ「熱病」の正体』(新潮選書、2015年)は、キリスト教を背景として米国に生まれた「反知性主義」の歴史を鮮やかに描いて大反響を呼びました。

その視座から、いま日本や世界に蔓延する動向について批判的に考察し、

日々の私たちの知のあり方や生きる姿勢について考えます。



関連書籍から●リチャード・ホフスタッター著、田村哲夫訳『アメリカの反知性主義』(原書・1963、訳書・みすず書房、2003)、内田樹編『日本の反知性主義』(晶文社、2015)、小田嶋隆『超・反知性主義入門』(日経 BP 社、同)、水島治郎『ポピュリズムとは何か』(中公新書、2016)、薬師院仁志『ポピュリズム』(新潮新書、2017)、ヤング＝ヴェルナー・ミュラー著、板橋拓己訳『ポピュリズムとは何か』(岩波書店、同)、木下ちがや『ポピュリズムと「民意」の政治学』(大月書店、同)、津田大介、日比嘉高『「ポスト真実」の時代』(祥伝社、同)

森本あんり●1956年、神奈川県生まれ。国際基督教大学(ICU)人文科学科卒。東京神学大学大学院、ICU・大学牧師を経て、米プリンストン神学大学院(PTS)でPh.D取得。2001年以来、ICU人文科学科教授(哲学、宗教学)。PTS およびパークレー連合神学大学院で客員教授を務める。2012年よりICU学務副学長。著書に『アメリカ・キリスト教史』(新教出版社、2006年)、『アメリカの理念の身体』(創文社、2012年)、『反知性主義』(新潮選書、2015年)ほか。